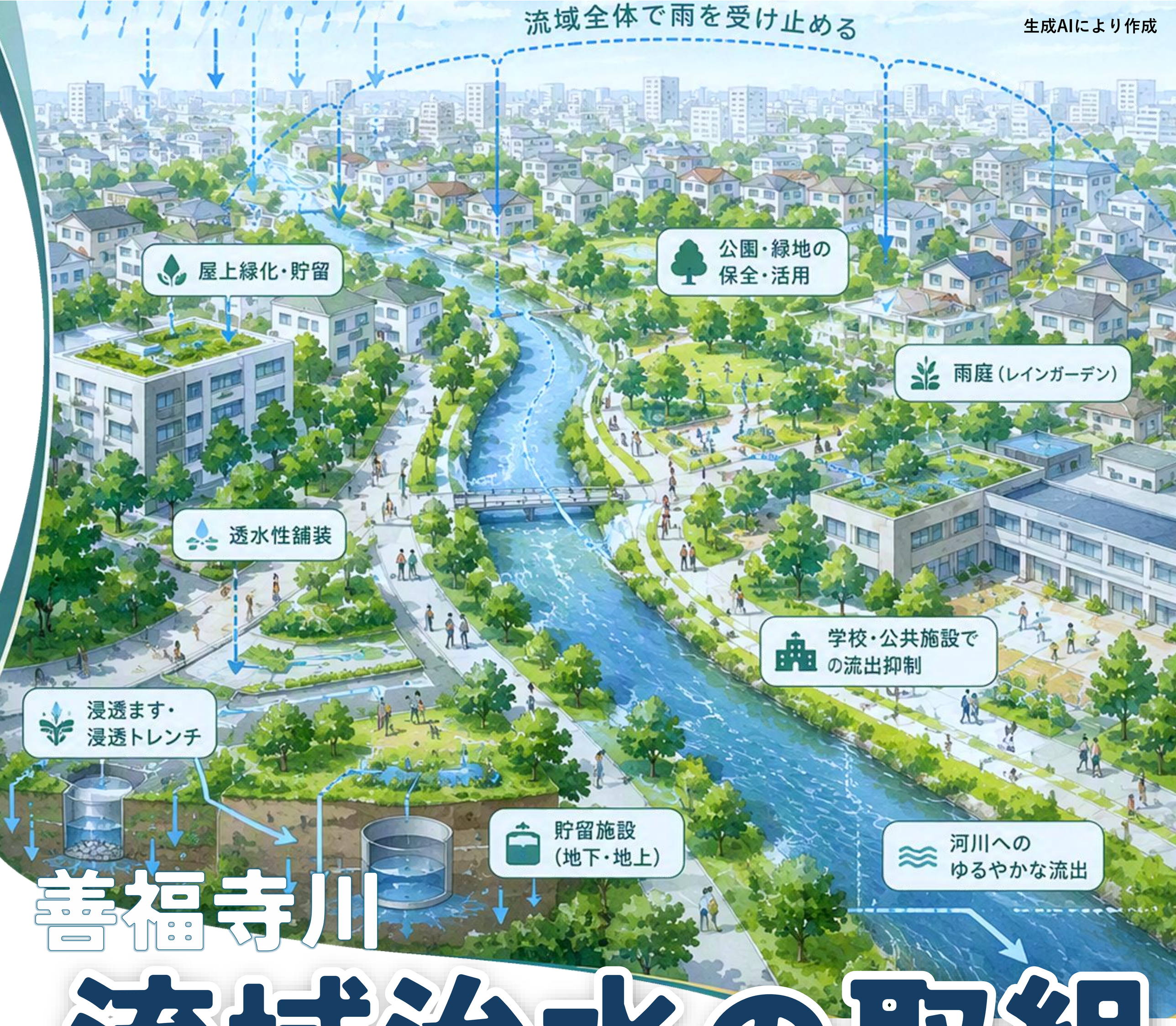


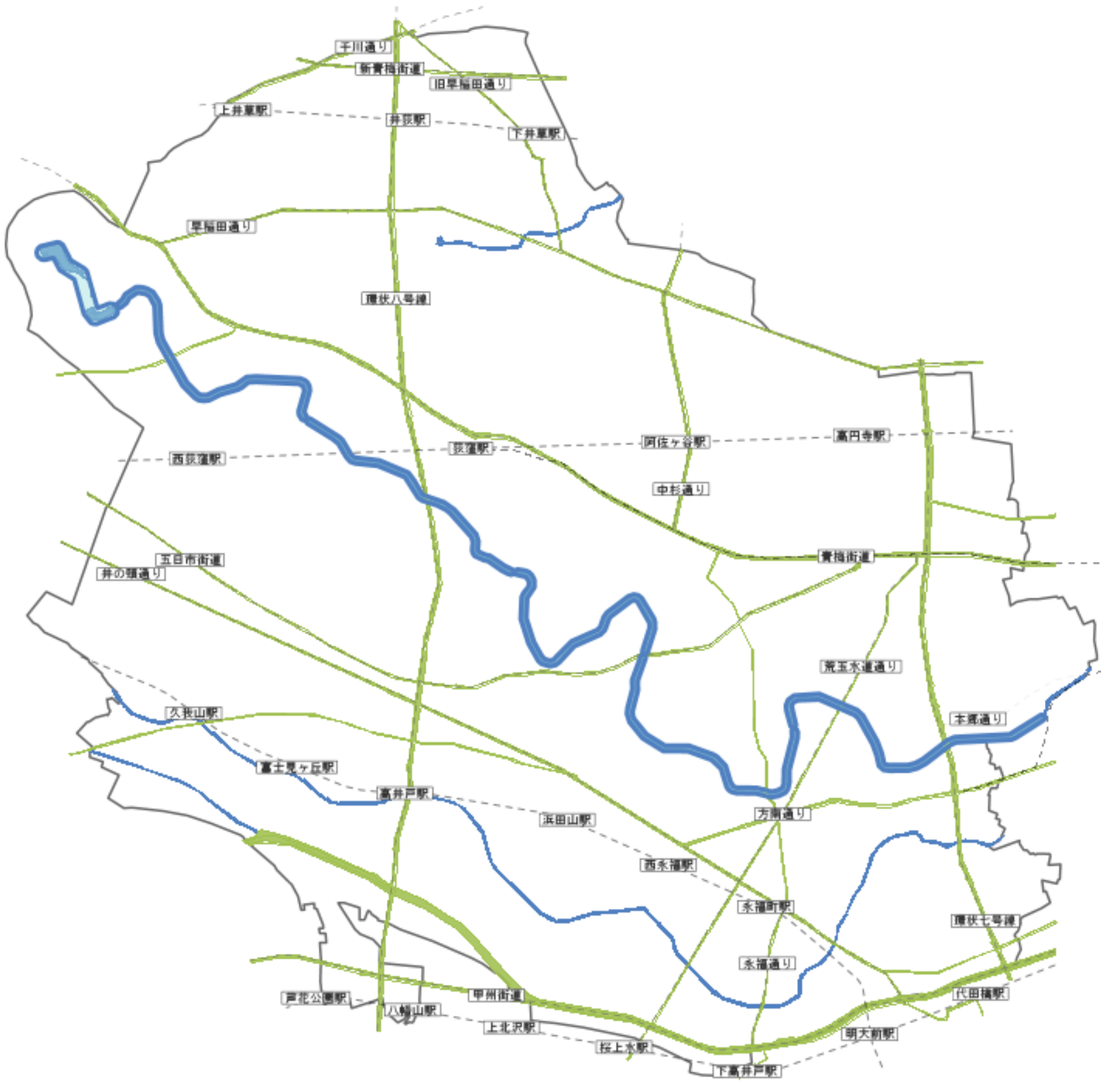
善福寺川

流域治水の取組

流域治水とは？

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、河川整備、下水道整備などのハード整備に加え、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。

杉並区での過去の水害





平成17年9月の集中豪雨による浸水区域

しかし、その後も大雨による被害は発生しており、令和5年6月の台風2号では、善福寺川上流部の西田端橋から松見橋付近で川の水があふれました。令和7年7月にも下井草で時間最大93ミリという、短時間に非常に強い雨が降り阿佐ヶ谷駅周辺をはじめ区内各所で冠水被害が発生しました。

水害から区民の命と暮らしを守るためには、河川や調節池の整備に加え、雨水を一時的に貯め、地中に浸透させる取組など、流域全体で雨水の流出を抑えることが重要です。

善福寺川流域における水害

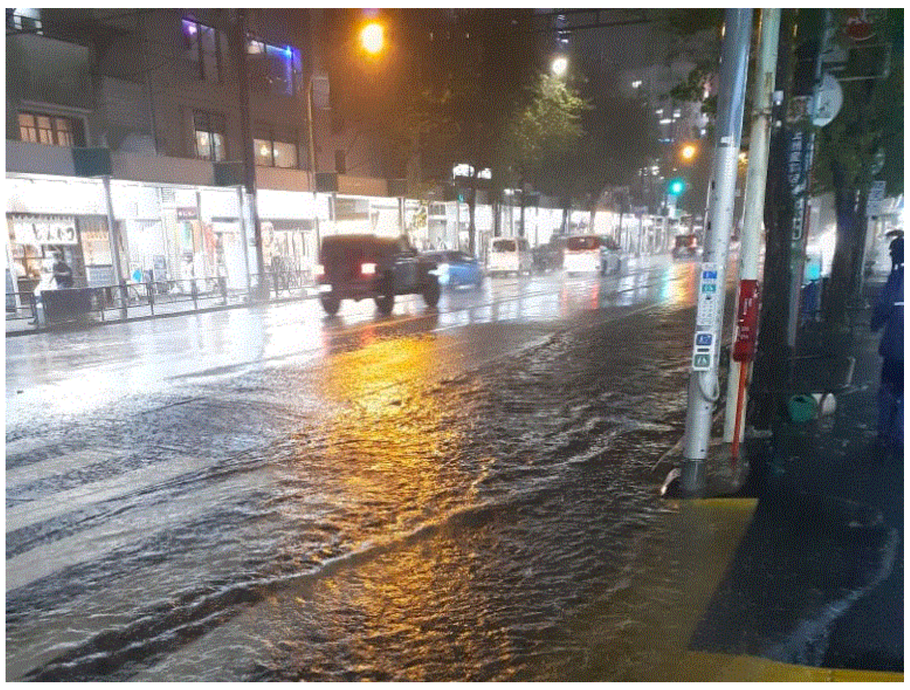
善福寺川は、善福寺池から杉並区の中央を流れ、神田川へとつながる、区民に身近な川です。一方で、流域では市街化が進み、雨水が地面にしみ込みにくくなったことなどから、これまで繰り返し水害が発生してきました。

平成17年9月の豪雨では、下井草観測所で1時間に112ミリ、総雨量263ミリの雨を観測しました。善福寺川では川から水があふれる「外水氾濫」と、川の水位上昇などにより雨水を排水できなくなる「内水氾濫」が同時に発生し、床上・床下合わせて約1,600棟の浸水被害が生じました。

こうした被害を踏まえ、善福寺川では護岸や調節池などの整備が進められてきました。



令和5年6月 西田端橋

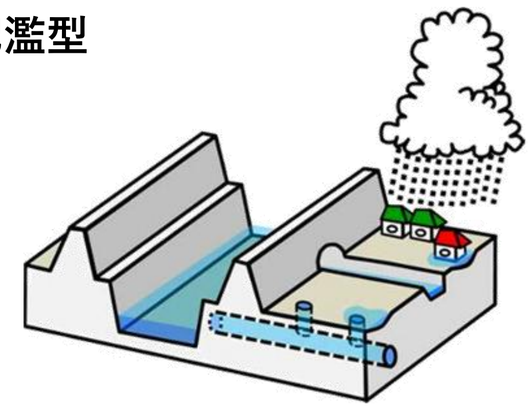
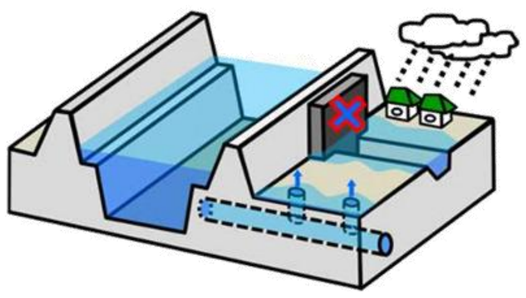
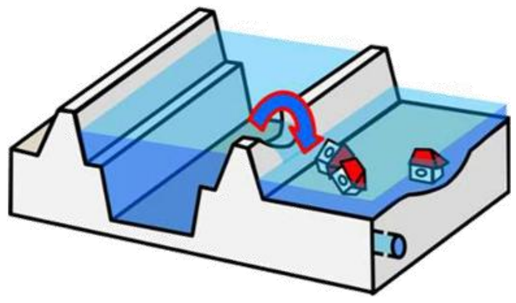


令和5年6月 青梅街道（天沼陸橋付近）

大雨でまちに水があふれるのはなぜ？

氾濫の種類

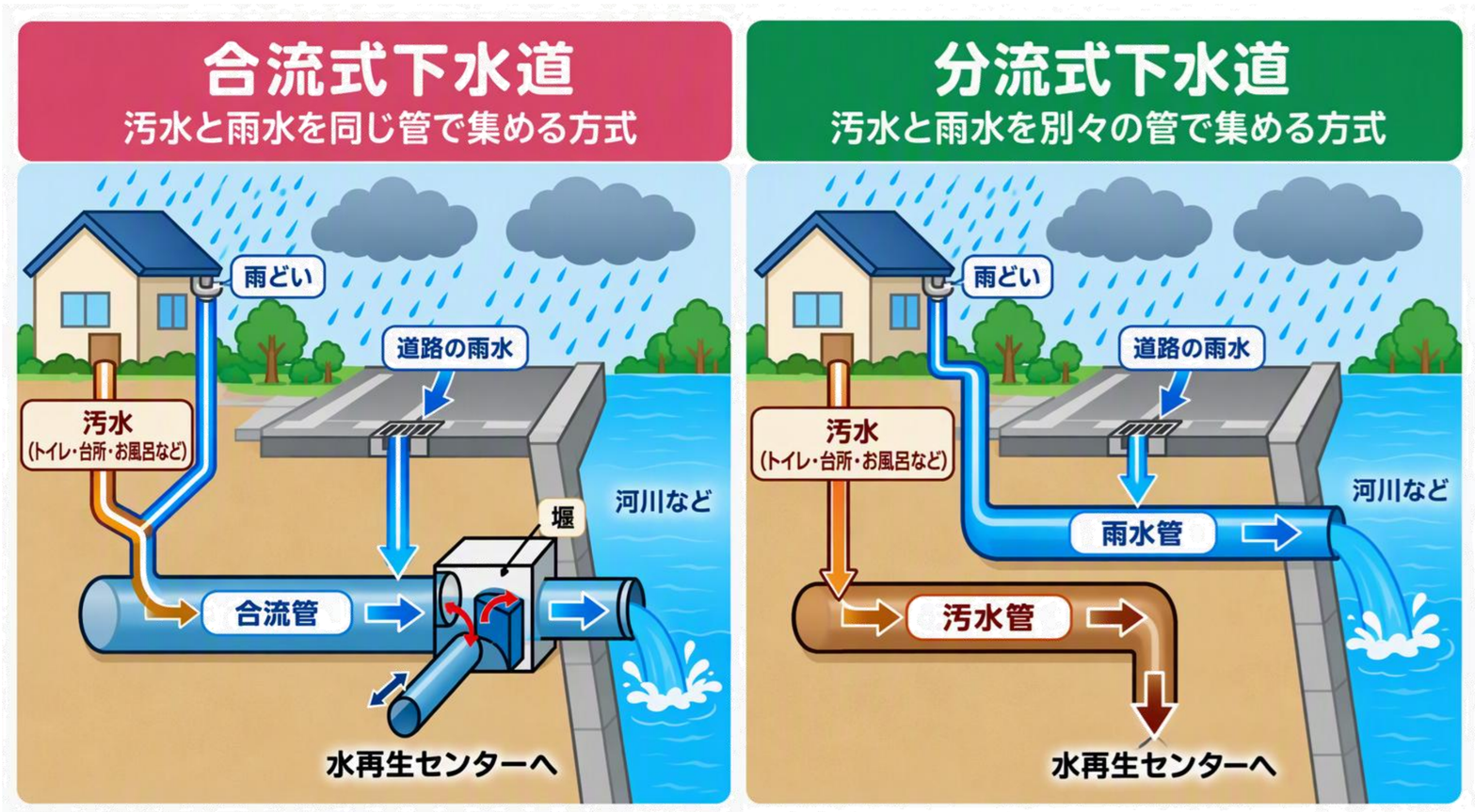
大雨による浸水被害には、「外水氾濫」と「内水氾濫」があります。外水氾濫は、河川の水位が上昇して堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊したりすることで発生する氾濫です。一方、内水氾濫は、短時間に大量の雨が降った際に下水道や排水路の処理能力を超えたり、河川の水位上昇によって雨水を川へ排水できなくなったりすることで発生する氾濫です。

内水氾濫		外水氾濫
氾濫型	湛水型	
		
短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず発生する浸水。 河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。	河川周辺の雨水が河川の水位が高くなったため排水できずに発生。 発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。	河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。
河川の増水によらない		河川の増水に起因

気象庁資料より作成

下水道の整備方法

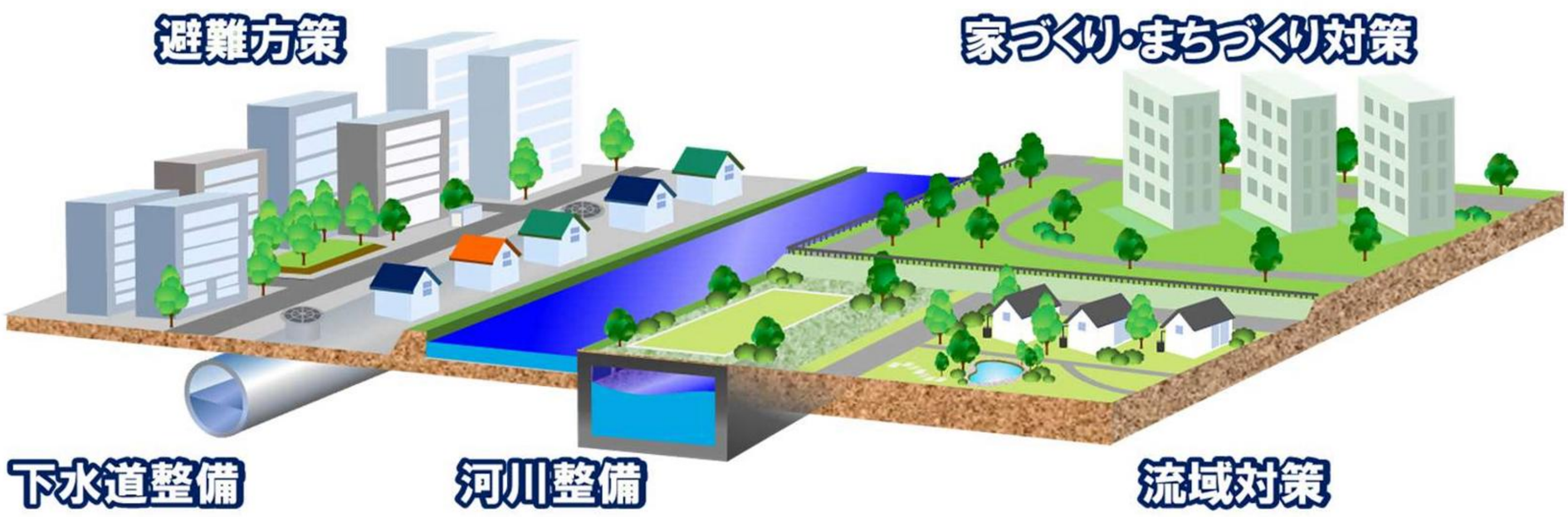
区内では、各家庭からの汚水と、屋根や道路などに降った雨水を同じ下水道管に流す「合流式下水道」を採用しています。大雨が降ると大量の雨水が一気に流れ込み、下水道管で流せる量を超えると、雨水を十分に排水できなくなります。このため、道路などに水があふれる「内水氾濫」が発生することがあります。



生成AIにより作成

東京都豪雨対策基本方針　（令和5年12月改定）

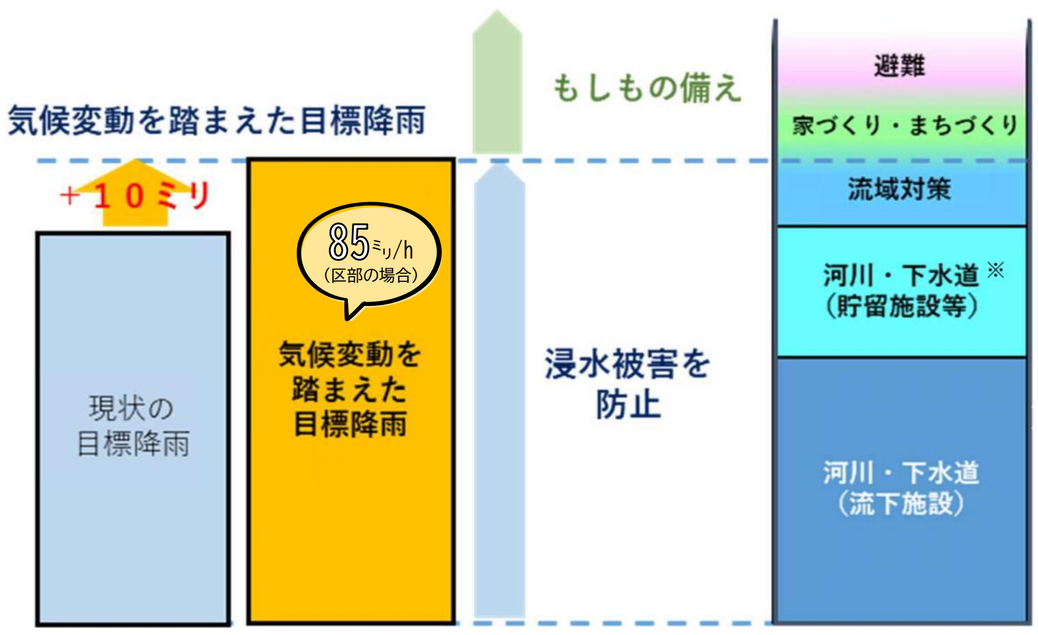
「東京都豪雨対策基本方針」は、豪雨による水害に対して、自助・共助・公助の考え方を踏まえた、豪雨対策の基本的な考え方を示すものです。
豪雨対策の5つの施策である「河川整備」「下水道整備」「流域対策」「家づくり・まちづくり対策」「避難方策」について、具体的な方向性を示すとともに、あらゆる関係者による取組を推進するための基本方針です。



出典：東京都豪雨対策基本方針（豪雨対策の基本的な施策）

豪雨対策の基本方針

- 気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対して、安全・安心なまちを目指す
- 気候変動に伴う降雨量の増加（1.1倍）に対応するため、目標降雨を引き上げ
- 目標降雨に対して、主に河川整備、下水道整備、流域対策で浸水被害を防止
- 目標を超える降雨に対しても、5つの施策を組み合わせて、もしもに備える
- 重点的な対策強化によって事業効果を早期発現し、都内全域で段階的に事業展開



東京都豪雨対策基本方針（豪雨対策の目標と
各施策における基本的な役割分担） を基に作成

豪雨対策の5つの施策

河川整備
- 河道の整備
- 調節池の整備
- 地下河川の整備

下水道整備
- 下水道管の整備
- 貯留施設の整備

流域対策
- 雨水流出抑制対策
  （貯留浸透施設の設置など）
- 透水性舗装

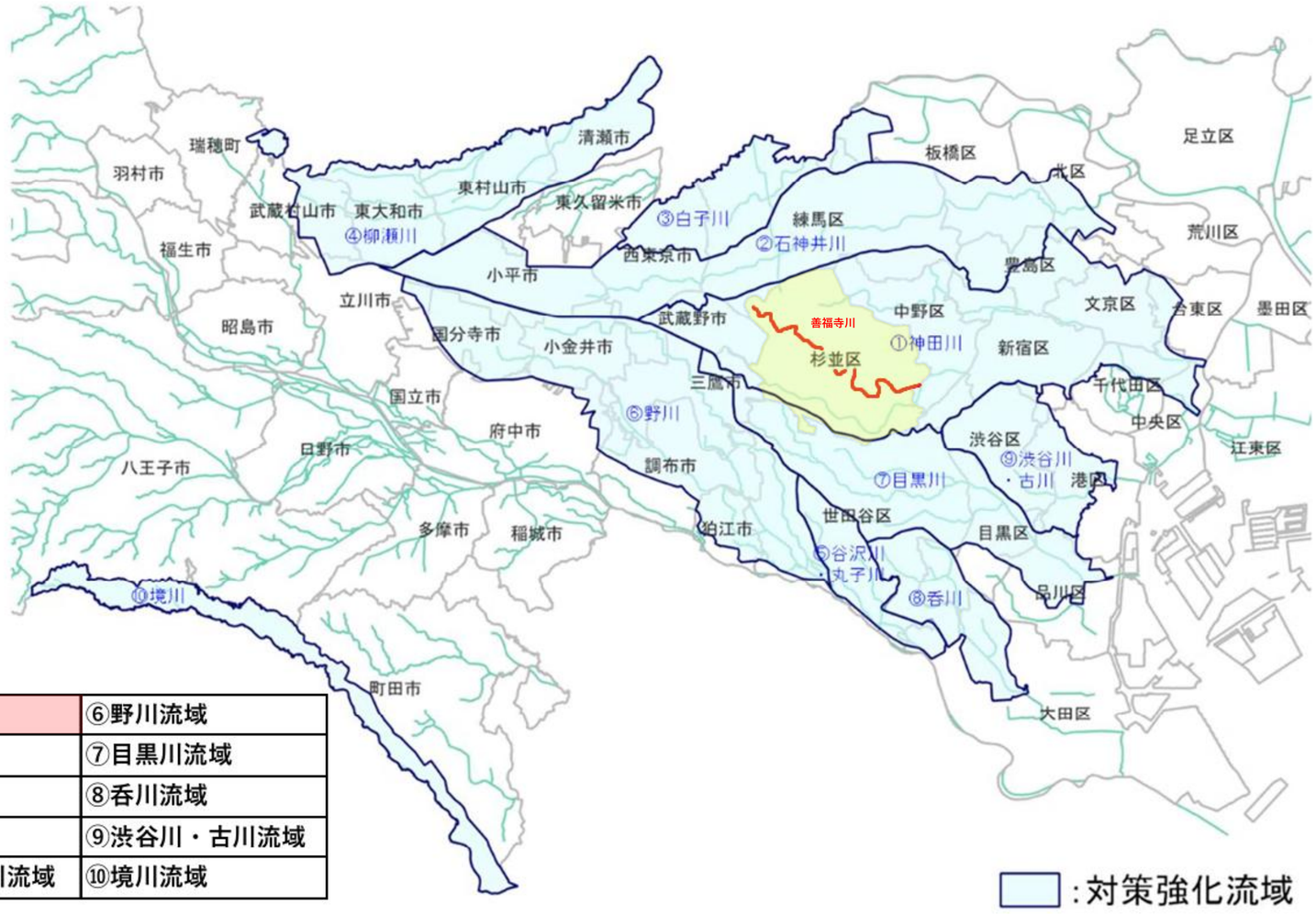
家づくり・まちづくり対策
- 高台まちづくり
- グリーンインフラ

避難方策
- 水害ハザードマップ
- 河川ライブカメラ
- 土のうステーション

河川整備

川幅を広げる、川底を掘り下げる、護岸を整備するなど、川の水を安全に流すための整備を進めます。
河川整備の目標は、気候変動を踏まえた年超過確率20分の1※規模の雨に対応することで、浸水リスクの高い流域から重点的に対策を進めます。

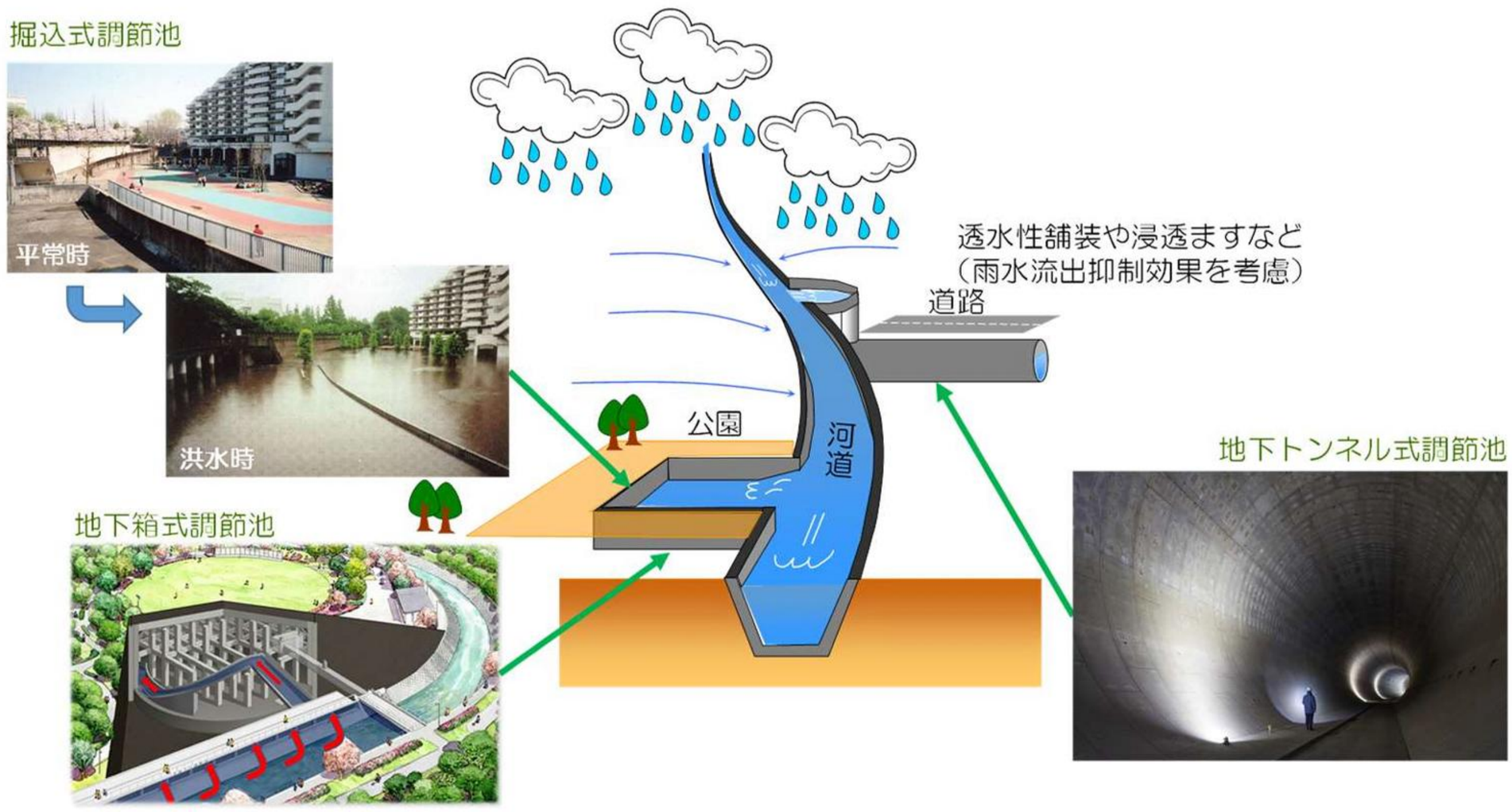
※1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/20（5%）であること



①神田川流域	⑥野川流域
②石神井川流域	⑦目黒川流域
③白子川流域	⑧呑川流域
④柳瀬川流域	⑨渋谷川・古川流域
⑤谷沢川・丸子川流域	⑩境川流域

東京都豪雨対策基本方針（対策強化流域（河川整備））を基に作成

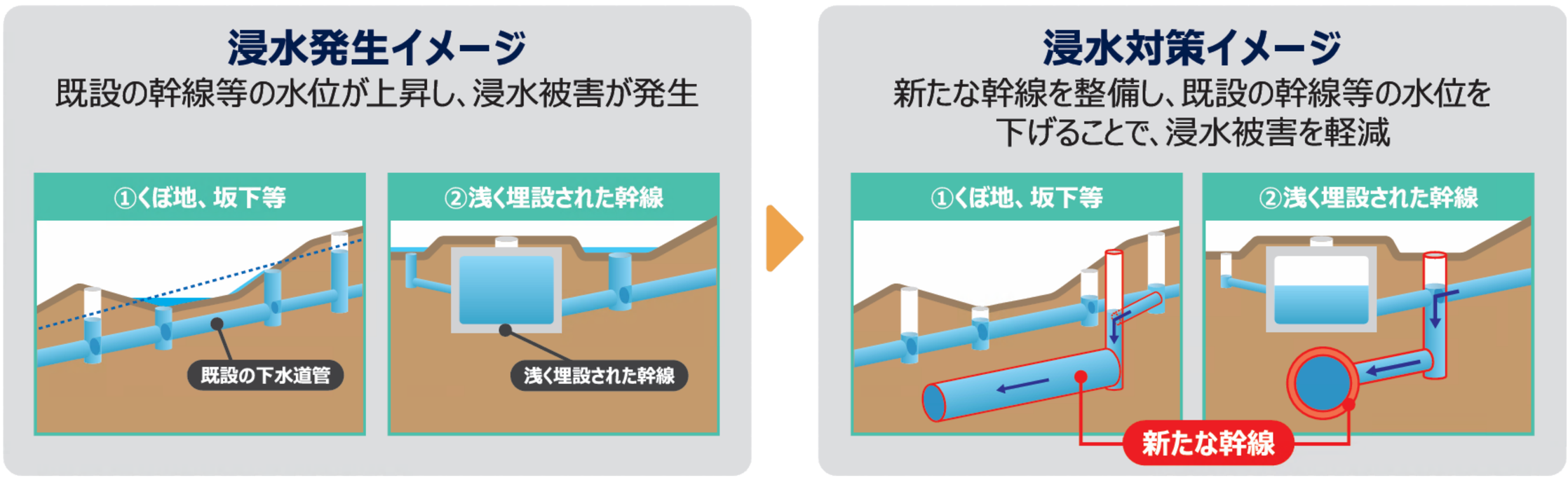
また、川だけでは流しきれない雨水を一時的にためる調節池や地下調節池を整備するとともに、地下河川の整備や複数の調節池の連結などにより、局地的な豪雨や長時間続く大雨にも対応していきます。
道路や公園などの公共空間、既存施設も有効に活用し、効率的に整備を推進します。



出典：東京都豪雨対策基本方針（調節池整備の更なる推進）

下水道整備

浸水被害を防ぐため、道路や住宅地に降った雨を速やかに排水できるよう、下水道幹線や雨水貯留施設などの整備を進めています。早期に被害を軽減するため、浸水実績に加え、事前防災の観点から流出解析シミュレーションの結果等を踏まえて浸水リスクの高い地区を重点化し、整備を進めています。



出典：東京都下水道事業経営計画2026（下水道幹線の整備による浸水対策のイメージ）

（令和７年度末時点）



（注）表および図の灰色の箇所は完了した地区

＜令和７年度末時点＞
67地区中
【完　了】31地区
【事業中】20地区
【設計中】16地区

※１ 重点地区は幹線等の完成により浸水地区への被害軽減効果を発揮した段階で完了としていますが、施設の整備状況により引き続き対策工事を実施している場合があります。

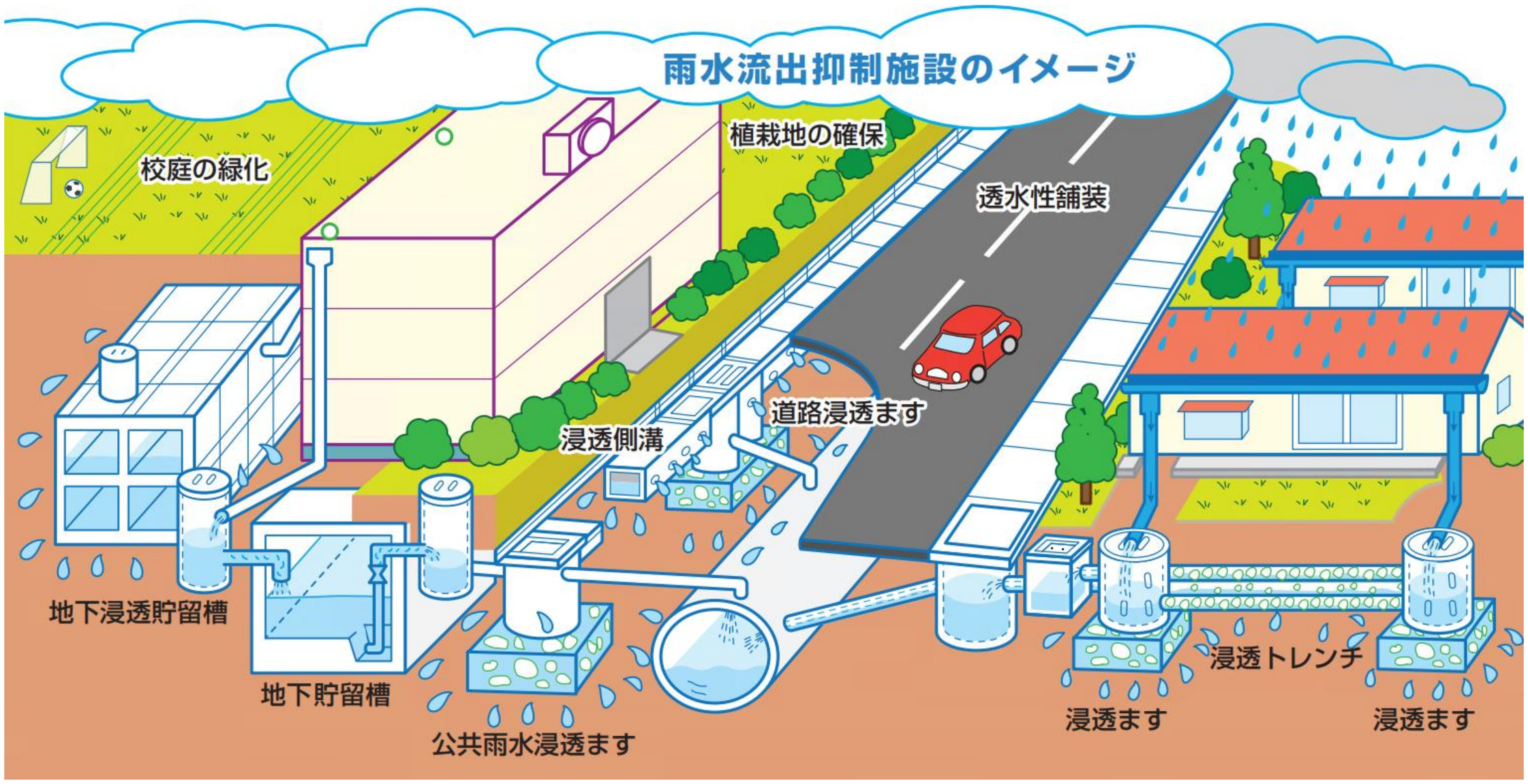
※２ 取組内容の増強施設とは、増強幹線の整備に限られたものではなく、幹線流域における貯留施設、主要枝線の整備等も含まれます。

東京都下水道事業経営計画2026（重点地区）を基に作成

流域対策

杉並区の雨水流出抑制対策

区では、雨水を道路や敷地内で浸透させたり、一時的に貯留する「雨水流出抑制施設」の設置を進めています。学校や公園といった公共施設などへの浸透貯留施設の設置や、道路の透水性舗装、浸透ますなどの設置により、降った雨を地面にしみ込ませたり、いったん貯めたりすることで、大雨のときに雨水が一気に集まるのを抑え、下水道や河川への負担を軽くすることにつながります。



地下浸透貯留槽



グラウンド等の地下に設置する貯留槽で、浸透機能も兼ね備えたものです。

透水性舗装



普通の舗装では、雨水は全て下水管へ流れ込んでしまいますが、透水性舗装は、雨水を地下にしみこませることができます。

地下貯留槽

敷地内や建物の地下に、貯留槽や貯留タンクを設置し、雨水を一時貯留する施設です。

雨水浸透施設設置助成

個人のお宅で雨を敷地の中に受け止める雨水浸透施設を設置していただく方に対して、工事費の一部を助成しています。

上限40万円まで

対象：敷地面積が1,000㎡未満の個人が所有する住宅・共同住宅・長屋など

（詳しくはお問い合わせください）

浸透ます

屋根や道路の雨水を集めるのが、雨水ますです。側面や底面に穴のあいた雨水ますで、雨水を地下にしみこませるものです。

浸透トレンチ

雨水ますと雨水ますを、穴のあいたパイプで連結して、ここから雨水を地下にしみこませるものです。

家づくり・まちづくり対策

防水板設置工事助成

区内における家屋の浸水被害の防止または軽減を図るため、住宅等の地下出入口などに防水板の設置及びこれに伴う関連工事を行う個人に対し工事費用の一部を助成しています。





令和8年度からは、工事費の75%、上限100万円まで助成内容を拡充しています。

（令和7年度まで：工事費の50%、上限50万円まで）

高床化工事助成

台風や集中豪雨などにより、河川の氾濫や地盤の低い地域での床上浸水などの被害が発生するおそれのある地域の方に、家屋の浸水被害の防止または軽減を図るため、住宅などを高床にする工事費用の一部を助成しています。

高床化工事にかかわる高床部分の床面積に、
標準工事費単価を乗じた額の50%、上限200万円まで※

※新築、増改築の場合



生成AIにより作成

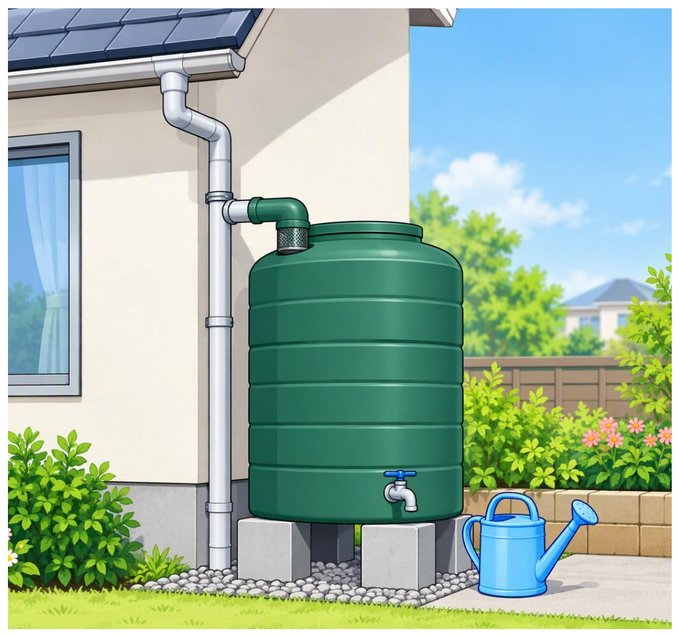
雨水タンク助成※

※雨水タンク助成は「エコ住宅促進助成」として実施しています。

雨水の貯留利用を目的に生産された既製品で、雨どいから取水するものを購入した方に対して購入費用の一部を助成しています。

本体価格（税抜）の50%、上限2万円まで

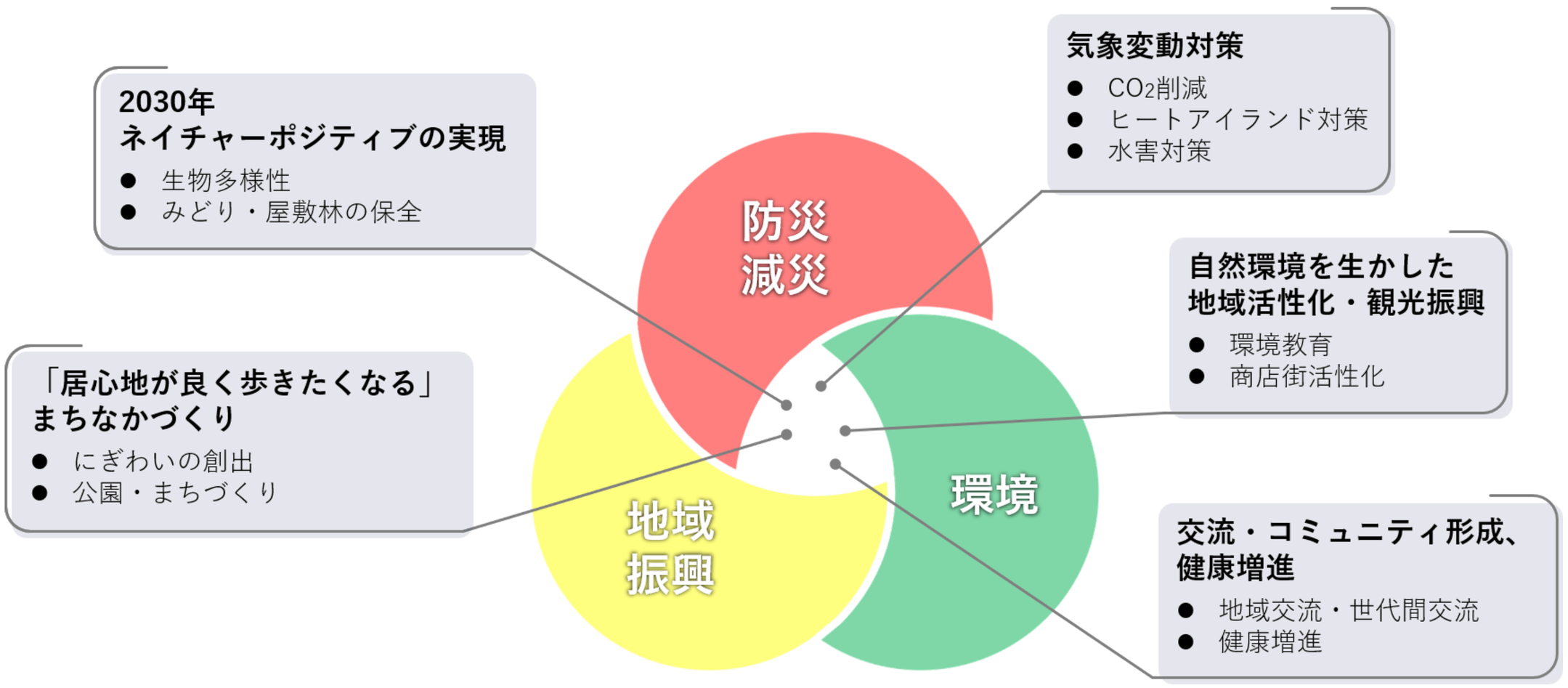
（注）購入時に値引きやポイント使用があった場合は、本体価格からその分を差し引いた額（税抜き）が対象となります。



生成AIにより作成

グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取組です。
自然が持つ力を活かすことで、環境面でも経済面でもより良いまちづくりが進められます。
グリーンインフラという考え方が国内外で注目を集めており、生物多様性やカーボンニュートラルといった世界的な環境課題に取り組むため、杉並区においても、積極的にグリーンインフラを活用したまちづくりを進めています。



グリーンインフラの取組事例

雨庭づくり体験型ワークショップ（令和7年8月～11月）

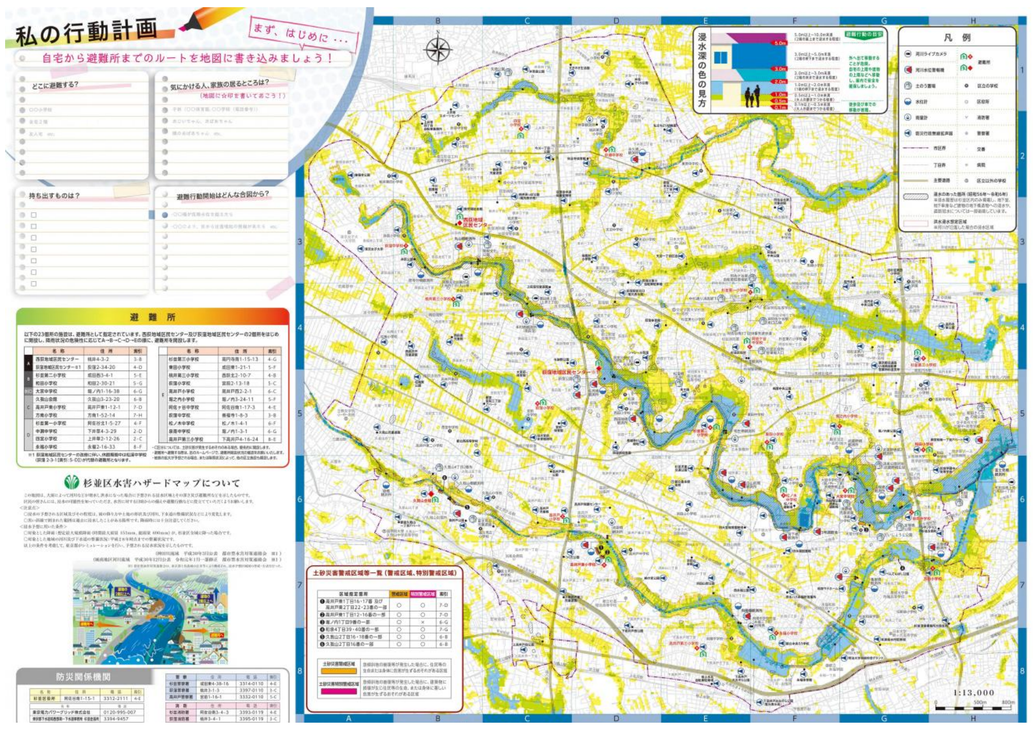
参加者の皆様に出していただいたアイデアをもとに、桃井原っぱ公園内に雨庭を作成しました。
また、学識経験者による講演や、浸透実験、実際に作成した雨庭の維持管理に関する意見交換等も行いました。



避難方策

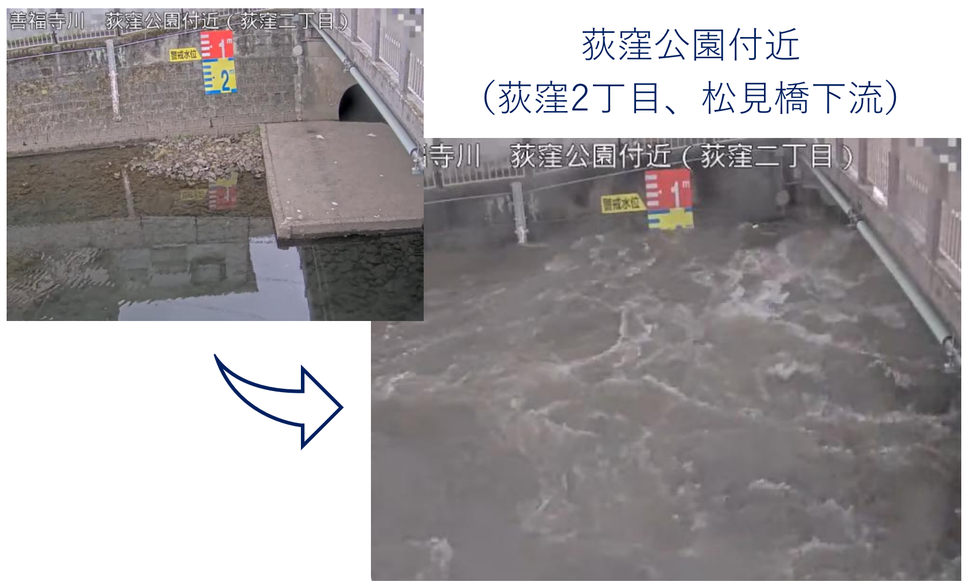
水害ハザードマップ

大雨によって河川などが増水し洪水になった場合に予想される浸水区域とその深さ及び避難所などを示したものです。
浸水の可能性を知っていただき、水害に対する日頃からの備えや避難行動などに役立てていただけます。



河川ライブカメラ

杉並区河川ライブカメラと東京都水防チャンネルのYouTube（ユーチューブ）でのライブ配信をご覧になれます。水害時の避難行動の判断材料等にご活用ください。



区では他にも、防災・防犯情報メール配信サービスやSNSなどを活用し、気象情報や避難所の開設状況などを随時お知らせしています。

防災・防犯情報
メール配信サービス

杉並区公式LINE

杉並区
（地震・水防情報等）
X

大雨の時の行動（区民の皆さんへのおねがい）

大雨の際には、洗濯やお風呂、大量の水を使う行為をなるべく控えていただくことで、下水道への負担を減らすことができます。一人ひとりの行動は小さくても、それが集まることで、浸水被害の軽減につながります。



広報すぎなみ（令和６年６月1日号）

善福寺川流域治水フォーラム

なぜフォーラムを開催するのか

繰り返される浸水被害や近年の豪雨を踏まえ、河川・下水道・流域対策などの全体像を共有し、水害への疑問や意見を対話につなげるために開催します。

繰り返す浸水被害	近年の豪雨	治水への高い関心
過去の経験を将来の備えへ	変化する雨に向き合う	個別事業を越え全体像を共有

フォーラムが目指すもの

区民、事業者、行政、専門家などが、善福寺川流域の現状や課題、流域治水の考え方を共有し、それぞれの立場や役割を理解する場を目指します。対話を重ねながら、家庭や地域などでできる取組をともに考え、継続的な協働・共創の場としていきます。



理解 流域治水と役割を知る

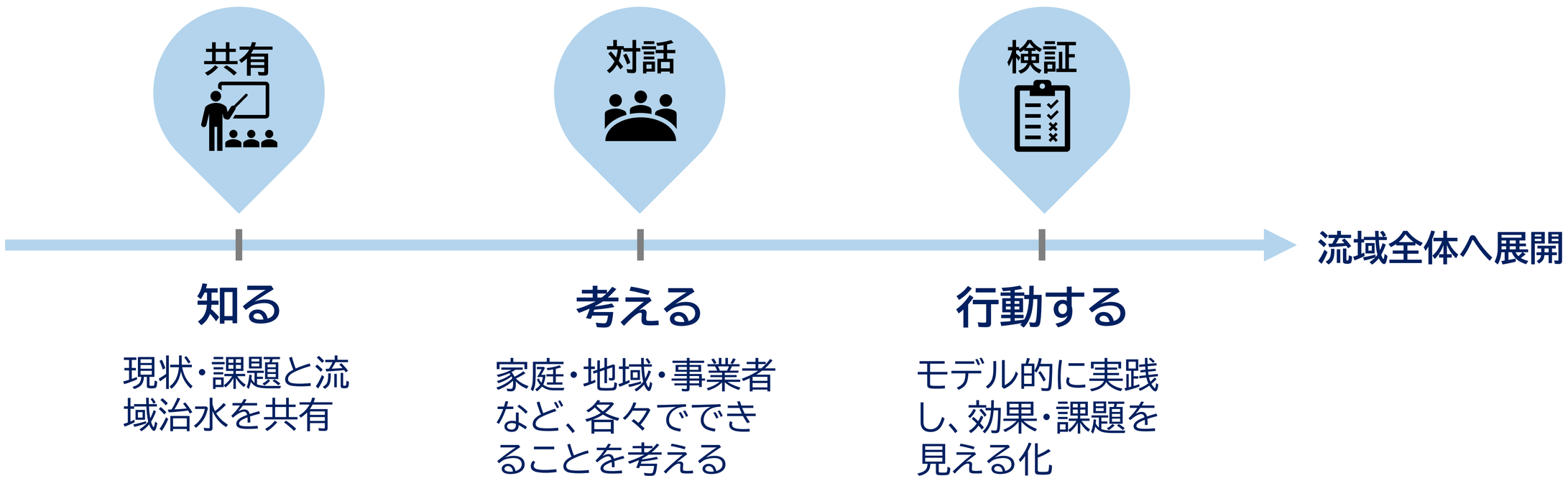
対話 疑問や意見を共有する

行動 できる取組につなげる

生成AIにより作成

「知る」から「考える」「行動する」へ

流域の水害リスクや河川・下水道・流域対策など、それぞれの取組の役割を「知る」ことから始めます。そのうえで、自分や地域で何ができるかを「考え」、地域の特性に合った具体的な「行動」へつなげます。取組の効果や課題を共有しながら、流域全体へ段階的に広げていきます。



流域治水への参加を広げる今後の取組

専門的な検討と区民との対話を往復させ、
取組を実践へつなげる

杉並区・専門家

流域治水の理解と参加を広げるために、
モデル地区での対策と効果の見える化

- 基礎データを整理
- モデル地区で対策を検討
- 効果・課題を検証し、見える化

善福寺川流域治水フォーラム

取組と効果を分かりやすく共有し、
参加を広げる

- 取組内容・効果を知る
- 対話を通じて自ら考える
- できることから行動する

今後は、区と専門家等による検討と、フォーラムなどを通じた区民の皆さんとの対話を重ね、地域の実情に合った取組を進めます。フォーラムで区と専門家等の取組の内容や対策の効果、課題を分かりやすく共有し、「対話・実践・検証・改善」の積み重ねを通じて、流域治水への理解と参加を広げていきます。

モデル地区内での取組イメージ

取組イメージ



見える化するもの

- 雨水の流れの変化
- 治水効果
- 景観・みどり・暑熱対策
- コスト・維持管理・実現可能性

など

「何を設置したか」だけでなく、効果と課題を検証し、他地区へ展開・反映します。

生成AIにより作成

モデル地区では、透水性舗装、雨庭、プランター、雨水タンクなどを地域の状況に応じて組み合わせ、雨水を一時的にためたり、地中にしみ込ませたりする取組を検討します。
治水効果だけでなく、維持管理や地域での取り組みやすさなども検証し、その成果と課題を共有しながら、ほかの地域や今後の施策への展開につなげます。